

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成20年7月

施設名	高知県立歴史民俗資料館	所管課室	文化・国際課
-----	-------------	------	--------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成18年4月1日～平成21年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p>面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建 <土地> 124,520㎡</p> <p><主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など</p> <p><開館時間> 午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般450円 高校生以下、高知県長寿手帳所持者(65歳以上)は無料 施設利用料 企画展示室23,470円(1日) AVホール14,990円</p>		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 8人 契約職員: 9人 合計: 18人		

2 収支の状況

単位:千円

		平成18年度(決算)	平成19年度(決算)	平成20年度(予算)
収入	県支出金	165,336	159,372	158,579
	事業収入	6,598	7,991	6,150
	その他	1,822	339	6,665
	収入計	173,756	167,702	171,394
	(事業収入)注1			
支出	事業費	28,805	24,552	29,796
	管理運営費	131,745	136,010	133,187
	(うち人件費)	(84,885)	(80,640)	(84,691)
	その他	10,744	6,726	8,411
	支出計	171,294	167,288	171,394

3 利用状況

		平成18年度実績	平成19年度実績	前年度比
年間利用者数(単位:人)	常設展	4,800人	3,258人	-1,542人
	企画展	27,570人	28,221人	651人
	合計	32,370人	31,479人	-891人
	<利用実績> 利用者数で見ると、前年度比891人減(2.7%減)の31,479人でほぼ横這いであるが、H18年度はくろしおアリーナで実施した伊能大図展の観覧者数(11,735人)が含まれており、南国市にある歴史民俗資料館へ直接来館した利用者は前年比10,844人の増(52.5%増)となっている。			

1)伊能大図展の入場者を含む

利用者意見等の反映	<p>利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等)</p> <p>・来館者アンケートによる企画展・館内対応等の意見に対し、可能な部分はすみやかに改善をし、また、検討を要する部分については、館内の委員会で検討し、改善に向け取り組んでいる。</p> <p>・アンケート以外にも、来館者と対話の機会を持ち、ニーズの把握に努めるほか、県内各地域に委嘱している「資料調査員」等からニーズを収集し、館の運営に反映している。また、最近ではEメールによる意見も多い。</p> <p>その他</p> <p>・歴史民俗資料館運営協議会(外部委員:年2回)や資料収集委員会(年1回)を開催し、事業等の評価や委員からの意見・提言をもとに管理運営の改善に繋げている。</p> <p>・クレーム情報は館内回覧を行い、事実の把握のもとに改善に努めている。</p> <p>・アンケート等の意見・クレームは、できる限り本人宛に文書で回答している。なお、無記名の意見等は、館のホームページ「お客様の声広場」に館の考え方とともに掲示している。</p>																									
その他特記事項	<p>・ 館の利用のほか、以下のような活動を行った。</p> <table border="0" data-bbox="518 604 1404 750"> <tr> <td>[教育普及事業]</td> <td>講演会</td> <td>3回(339人)</td> <td>講座</td> <td>4回(162人)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>展示室トーク</td> <td>10回(207人)</td> <td>史跡めぐり</td> <td>3回(122人)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワクワク</td> <td>15回(482人)</td> <td>職場体験</td> <td>4校(10人)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>派遣授業</td> <td>2校(236人)</td> <td>学校来館対応</td> <td>68校(3,337人)</td> </tr> <tr> <td></td> <td colspan="4">高知の食文化を味わう～食のこころ～ 12回(580人)</td> </tr> </table>	[教育普及事業]	講演会	3回(339人)	講座	4回(162人)		展示室トーク	10回(207人)	史跡めぐり	3回(122人)		ワクワク	15回(482人)	職場体験	4校(10人)		派遣授業	2校(236人)	学校来館対応	68校(3,337人)		高知の食文化を味わう～食のこころ～ 12回(580人)			
[教育普及事業]	講演会	3回(339人)	講座	4回(162人)																						
	展示室トーク	10回(207人)	史跡めぐり	3回(122人)																						
	ワクワク	15回(482人)	職場体験	4校(10人)																						
	派遣授業	2校(236人)	学校来館対応	68校(3,337人)																						
	高知の食文化を味わう～食のこころ～ 12回(580人)																									

4 平成19年度業務評価

項 目	状 況 説 明
管理運営に関する評価	<p>運営に努力の跡が見られる。また、老朽化しつつある施設の管理を適切に行っている。</p> <p>・スタッフの少なさや地理的なハンディがあるが、企画展にあわせた参加体験型の企画や館外との交流の実施など、知恵を絞り頑張っていることで、入館者や収入が増加しており評価できる。今後来館者が利用したいサービスを付加するなど、より工夫を重ね利用者の増加に努めてほしい。</p> <p>・岡豊城(岡豊山)が国指定の史跡に指定されることから、史跡指定を活かして歴史民俗資料館が県民に更に普及することを期待している。牧野植物園のように施設のみでなく岡豊山全体をエリアで利用する方法も考えられるのではないかと。</p>
事業の実施(企画及び運営)に関する評価	<p>・地域と連携した事業を立ち上げるなど積極的に館から出向いて事業を行っており、努力の跡が見られるとともに前向きな姿勢が感じられ評価できる。</p> <p>・親子事業などの参加機会を増やすために教育機関へのPRや連携を更に進めてほしい。なお、「出前授業」の認知度が低いと感じる。一層のPRを希望する。</p> <p>・収蔵環境については、毎年、地震対策に取り組み、少しずつ充実させている姿勢が評価できる。収蔵資料については、分類、整理が十分できていない感がある。これらを最優先で行うべきでないか。</p> <p>・地域連携活動に期待する。また、桜をテーマとした事業を継続して展開されることを望む。</p>
総合的な評価	平成18年度の事業評価を真摯に受けとめ、努力し良い取組を行っている。
総合評価	<p>・今後の岡豊山の保存と活用に期待する。また、県民(子どもから大人まで)の親しむ場構想を進めてほしい。</p> <p>・「食」に関わる企画は人気が高く、今後もこうしたテーマで県民が学び楽しめる事業を期待する。</p> <p>・出前授業の甲冑体験は、子どもにとって実際の歴史に触れる貴重な体験であり、教育上意義があると考えられる。なお、学校現場に積極的に出ていくためには、館と学校双方の調整が必要であり、教育委員会等との連携強化を期待する。</p> <p>・資料の収集は重要だが、館の収蔵庫が満杯状態であることを考えると、収蔵する資料のテーマの絞り込みが必要ではないかと。特に、民俗資料の収集については市町村等の資料館(郷土館)との区分け、収集資料の線引きが必要と考える。</p> <p>・立地条件から県民が気軽に利用しづらいなど収益性等に課題があり、施設の必要性に疑問を感じていたが、歴々の事業展開や岡豊城の価値、収蔵資料や収蔵機能の充実を考慮したとき収益性重視でない文化施設の必要性を大いに感じた。史跡指定とともに一層の飛躍を期待する。</p>

【評価の目安】

- A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容と一致する成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

評価項目ごとの評価内容

県立文化施設指定管理者事業評価シート(平成19年度事業)

施設名		高知県立歴史民俗資料館	
評価項目	評価	特記事項	
1 管理運営の基本方針（総括）	A	・前年度の事業評価を真摯に受けとめ、努力し良い取組を行っている。	
平成19年度の歴史民俗資料館の管理運営（事業）にあたって、どのような方針を立て、どう結果をだしたか。			
平成18年度事業評価の結果を踏まえ、どのように取組んできたか。			
2 事業を通じて県民の創造活動の支援、文化振興への寄与ができたか	A	・昨年度に比べ積極的に館から出向いて事業を行うなど大きく変わった。努力の跡が見られるとともに前向きな姿勢が感じられる。	
(1) 展覧会事業の実施	A	・企画展にあわせ、参加、体験型の企画を行うなど、工夫、アイデアが見られる。これらの取り組みが入館者数等の結果につながっている。	
企画展の実施回数及び常設展を含む展示内容、集客目標と観覧者数等の状況			
理解促進の取組の状況			
展覧会事業についての特記事項			
(2) 教育普及事業その他の事業	A	・学校への宣伝や広報活動を一層推進し、学校との連携がさらに広がることを期待している。 ・保護者等の理解を得て親子事業などに参加してもらえる機会を増やすために、教育機関へのPRを更に拡大してほしい。 ・「出前授業」の認知度は低い。良い事業であるのでPRに努めてほしい。	
事業の内容、件数、参加人数の状況			
教育普及事業その他の事業についての特記事項			
(3) 事業を通じた創造活動・文化振興の支援	B	・岡豊城(岡豊山)が国指定の史跡に指定されることから、史跡指定を活かして歴史民俗資料館が県民に更に普及することを期待している。また、牧野植物園のように施設のみでなく岡豊山全体をエリアで見せる方法も考えられるのではないかと。	
子どもが歴史文化に親しみ感性を育む取組			
高齢者や障がい者が利用しやすい取組			
地域の文化活動との連携・支援			
施設の活用			
(4) 県民の視点にたった運営	A	・企画展の中で学芸員が展示室トークを行うとともに、解説員が日常的に解説をしている。今後も、更にわかりやすい解説に努めてほしい。	
歴史民俗資料館の活動や歴史文化についての情報提供			
利用者、県民へのレファレンスの状況			
県民参加の活動			
県内の文化施設との連携			
3 資料の適正な管理と活用ができたか	B	・毎年、収蔵庫の地震対策に取り組み、保存管理を少しずつ充実させている姿勢を評価する。 ・資料の収集は重要だが、館の収蔵庫が満杯状態であることを考えると、収集する資料のテーマの絞り込みが必要ではないか。特に、民俗資料の収集については市町村等の資料館(郷土館)との区分け、収集資料の線引きが必要と考える。	
(1) 資料の収集及び保存管理	B	・地震により貴重な資料が失われることのないよう、対策を進めてほしい。	
資料収集の状況			
資料の修復			
保存環境の維持			
(2) 資料の効果的な活用	B	・収蔵された資料の分類、整理が十分できていない感がある。これらを最優先で行うべきでないか。	
資料データの管理			
所蔵資料の活用の状況			
調査研究と成果の公表			
4 効率的な運営とサービスの向上が図れたか	A	・運営に努力が見られる。これまで以上に来館者がサービスの向上を感じられる工夫に努めてほしい。	
(1) 経営努力	A	・入館者、収入ともに増加し、努力の跡がうかがえる。	
収入増加の取組			
経費縮減の取組			

(2) サービス向上への取組 自己点検・評価の状況 事故、クレームへの対応 職員の専門性の向上 その他のサービス改善事項	B	・立地条件が悪くてもサービスが良ければ客は何度も足を運んでくれる。来館者が利用したいサービスを付加することが重要。 ・サービスが前年と比べ格段に良くなっていると感じられるよう一層の努力を望む。
(3) 社会的責務 専門的人材の育成 県内の文化施設を牽引する取組 法令・規程等の遵守	A	・組織が膠着しないために人事交流は大切。地方では専門性等難しい問題があるかもしれないが、考えてほしい。
5 施設及び設備の管理は適正に行えたか	A	・老朽化しつつある施設の管理を適切に行っている。
(1) 建物や設備の管理状況 点検・修繕の実績 第三者への業務委託の状況	A	
(2) 危機管理 (風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策、マニュアル作成や職員研修など)	B	
総合評価	〔評価委員の意見〕	
A	・地理的なハンディやスタッフの少なさにもかかわらず、催し物や館外との交流などに知恵を絞り、頑張っている。 ・今後の岡豊山の保存と活用に期待する。「歴史散策コース(史跡全体) 終着は資料館」を積極的に提案して、県民(子どもから大人まで)の親しむ場構想を進めてほしい。 ・「食」に関わる企画は人気が高く、今後もこうしたテーマで県民が学び楽しめる事業を期待する。 ・地域連携活動に期待する。また、桜をテーマとした事業を継続して展開されることを望む。 ・出前授業の中に甲冑体験があるが、これは子どもにとって実際の歴史に触れる貴重な体験になる。体験型学習は子ども達にとって教育上意義があると考え。なお、学校現場に積極的に出ていくためには、館と学校双方の調整が必要であり、教育委員会等との連携強化を期待する。 ・あまり収入にこだわらないで、むしろ施設を利用していただく(集客)ということにポイントをおいてはどうか。 ・立地条件から県民が気軽に利用しづらいなど収益性等に課題があり、施設の必要性に疑問を感じていたが、歴民の事業展開や岡豊城の価値、収蔵資料や収蔵機能の充実を考慮したとき収益性重視でない文化施設の必要性を大いに感じた。史跡指定とともに一層の飛躍を期待したい。	

評価の段階の目安

- 「A」 計画や目標を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた
- 「B」 概ね計画や目標どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた
- 「C」 計画や目標に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえ、大いに改善を要する